

(様式第 9)

H25 がん研究第 50 号

平成 25 年 10 月 4 日

関東信越厚生局長 殿

公益財団法人がん研究会 有明病院

公益財団法人がん研

開設者名 理事長 草刈 隆郎

公益財団法人がん研究会有明病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	111 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	273人	54人	288.0人	看護補助者	93人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	3人	3人	3.9人	理学療法士	4人	臨床検査技師	70人
薬剤師	64人	0人	64.0人	作業療法士	0人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	0人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	673人	21人	687.5人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	10人	0人	10.0人	栄養士	1人	その他の技術員	21人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	184人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	71人	その他の職員	30人

(注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	604.5 人	0 人	604.5 人
1日当たり平均外来患者数	1581.1 人	42.4 人	1623.5人
1日当たり平均調剤数		784.1	剤

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る)	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。
 (注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	3人	・膿疱性乾癬	人
・多発性硬化症	人	・広範脊柱管狭窄症	人
・重症筋無力症	人	・原発性胆汁性肝硬変	2人
・全身性エリテマトーデス	9人	・重症急性膵炎	人
・スモン	人	・特発性大腿骨頭壊死症	人
・再生不良性貧血	人	・混合性結合組織病	人
・サルコイドーシス	9人	・原発性免疫不全症候群	人
・筋萎縮性側索硬化症	人	・特発性間質性肺炎	2人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	9人	・網膜色素変性症	人
・特発性血小板減少性紫斑病	3人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	人	・肺動脈性肺高血圧症	人
・潰瘍性大腸炎	23人	・神経線維腫症	人
・大動脈炎症候群	人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	1人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	人
・脊髄小脳変性症	人	・ライソゾーム病	人
・クローン病	2人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2人
・悪性関節リウマチ	人	・脊髄性筋萎縮症	人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	23人	・球脊髄性筋萎縮症	人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	人
・後縦靭帯骨化症	人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	人	・ミトコンドリア病	人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	3人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2人	・黄色靭帯骨化症	人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	15人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・HPV核酸検出	・
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	10回
部 検 の 状 況	部検症例数 18 例 / 部検率 4.4%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別添(研究費)参照				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 51

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別添(論文)参照			

計 109

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	西尾 誠人	呼吸器内科	200,000	補 厚生労働省
呼吸器悪性腫瘍に対する標準治療のための多施設共同研究	同上	同上	700,000	補 国立がん研究センター
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	同上	同上	800,000	補 厚生労働省
進展型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験	同上	同上	500,000	補 厚生労働省
血液サンプルを用いた難治性固形癌のがんの薬物療法の効果予測因子の臨床的有効性の検討	同上	同上	500,000	補 国立がん研究センター
末梢小型非小細胞肺癌に対する縮小手術の有用性を検証する研究	奥村 栄	呼吸器外科	700,000	補 厚生労働省
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	石井 浩	消化器内科	400,000	補 厚生労働省
膵がんに対する重粒子線両方の確立に関する研究	同上	同上	100,000	補 厚生労働省
膵癌に対する術後再発予防のための2方向性新規ペプチドワクチン療法の開発	同上	同上	6,000,000	補 厚生労働省
わが国で新しく発明された概念に基づく抗がん剤アルクチゲニン臨床第Ⅱ相試験による膵がん克服	同上	同上	5,000,000	補 厚生労働省
ピロリ菌感染率減少時代における新しい対策型胃がん検診システム構築の検証に必要なプロトコール作成と実現可	平澤 俊明	同上	500,000	補 厚生労働省
NBI併用拡大内視鏡による未分化型胃癌の術前範囲診断への応用	岡田 和	内視鏡診療部	500,000	補 公益財団法人内視鏡医学振興財団
高度リンパ節転移を伴う進行胃癌の根治を目指した術前化学療法+拡大手術法の確立	佐野 武	消化器外科	15,000,000	補 厚生労働省
がん治療のための革新的新技術の開発及び臨床応用に関する総合的な研究	同上	同上	2,000,000	補 厚生労働省
miRNA網羅的発現解析に基づく直腸癌術前放射線化学療法効果予測キットの開発	秋吉 高志	同上	3,000,000	補 武田科学振興財団
miRNA網羅的発現解析に基づく直腸癌術前放射線化学療法効果予測キットの開発	同上	同上	500,000	補 癌臨床研究助成基金
miRNA網羅的発現解析に基づく直腸癌術前放射線化学療法(CRT)効果予測キットの開発	同上	同上	1,000,000	補 大和証券ヘルス財団
最新の原発巣病理評価法を用いた新しい大腸癌肝転移予後予測指標の確立に関する多施設研究	小西 毅	同上	500,000	補 外科学研究助成基金
最新の原発巣病理評価法を用いた新しい大腸癌肝転移予後予測指標の確立に関する多施設研究	同上	同上	500,000	補 第100回日本外科学会定期学術集会記念・外科手術研究助成基金
大腸癌進展に関与する新規遺伝子の機能解析および臨床応用への試み	長山 聡	同上	3,900,000	補 文部科学省
超音波エラストグラフィーによる新しい肝疾患診断法の確立	井上 陽介	同上	968,710	補 文部科学省
胆道がん切除後補助療法の標準治療確立に関する研究	齋浦 明夫	同上	500,000	補 国立がん研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肝胆膵がんに対する低侵襲外科治療の確立	同上	同上	700,000	補 国立がん研究センター
胃がん肝転移の外科治療に関する研究	同上	同上	660,000	補 国立がん研究センター
地域におけるがん医療連携のシステム化に向けた研究	蒔田 益次郎	乳腺外科	1,000,000	補 大和証券ヘルス財団
治療標的となる新規融合型キナーゼの同定及び乳がんのTKI感受性・耐性を規定する分子機構の解明におけるCTC解析	伊藤 良則	乳腺内科	1,000,000	補 文部科学省
外来通院治療室の現状解析と問題点の抽出	同上	同上	800,000	補 厚生労働省
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準的治療とする為の研究	竹島 信宏	婦人科	800,000	補 厚生労働省
頭頸部外科領域における手術手技の開発と標準化	川端 一嘉	頭頸科	500,000	補 厚生労働省
甲状腺未分化癌に対する化学療法の有効性に関するエビデンスの蓄積と効果予測因子に関する研究	杉谷 巖	同上	500,000	補 大阪市立大学
機能温存のための精密縮小手術と至適補助療法の開発、品質および標準化に向けた基盤的研究	下地 尚	整形外科	500,000	補 国立がん研究センター
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確率のための研究	松本 誠一	同上	190,000	補 厚生労働省
重粒子線臨床試験	同上	同上	100,000	補 放射線医学総合研究所
腎細胞癌に対する分子標的治療薬の効果と副作用の予測に関するバイオマーカーの探索	湯浅 健	泌尿器科	2,000,000	補 喫煙科学研究助成金
高脂肪・高カロリー食による泌尿器癌の進展の分子機構の解明と治療標的分子の同定	同上	同上	18,460,000	補 文部科学省
HIV 感染症に合併するリンパ腫発症危険因子の探索と治療法確立に向けた全国規模多施設共同研究の展開 (H24・分担)	照井 康仁	血液腫瘍科	1,900,000	補 厚生労働省
外来化学療法におけるチーム医療の整備と検証に関する研究	高橋 俊二	総合腫瘍科	4,100,000	補 厚生労働省
乳癌患者における骨髄微小転移と骨微小環境の相互作用についての検討	同上	同上	780,000	補 文部科学省
がんの集学的治療の早期開発の研究体制に関する研究	同上	同上	2,000,000	補 厚生労働省
骨転移患者のQOL改善を目指した早期診断・治療体系の確立に関する研究	同上	同上	700,000	補 厚生労働省
高病原性を有する肺炎桿菌の疫学	原田 荘平	感染症科	1,300,000	補 文部科学省
放射線治療期間の短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	加賀美 芳和	放射線治療部	100,000	補 厚生労働省
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	西村 恭昌	同上	400,000	補 厚生労働省
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database の構築と運用	沼崎 穂高	同上	250,000	補 厚生労働省
呼吸移動を伴う胸部病変に対する先進的強度変調回転照射に関する研究	橋本 成世	同上	5,000,000	補 厚生労働省
プラスチックシンチレーターを用いた4次元線量分布測定器の開発	同上	同上	5,590,000	補 文部科学省
有効なIVR手技の開発と標準化のための多施設共同研究～経血管的治療IVR～	松枝 清	画像診断部	1,000,000	補 厚生労働省
画像診断につく消化器がん、肺がん、乳がん、前立腺がんのclinical stagingの確立と治療法選択・効果判定・予後に関する研究	同上	同上	300,000	補 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腫瘍組織における遺伝子の構造および発現	石川 雄一	病理部	3,000,000	補	環境省
小細胞癌の層別化	同上	同上	3,500,000	補	日本学術振興会
光機能性有機蛍光プローブによる肺癌の検出	同上	同上	4,000,000	補	日本学術振興会

計:3件

合計:51件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann. Thorac. Cardiovasc. Surg.: in press, 2012	A Clinicopathological Study of Resected Small-Sized Squamous Cell Carcinomas of the Peripheral Lung: Prognostic Significance of Serum Carcinoembryonic Antigen Levels.	Nagashima, T.	呼吸器外科
Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg. 60(8): 537-41, 2012	Two patients of left lung cancer with right aortic arch: review of eight patients.	Nakada, T.	呼吸器外科
Interact. Cardiovasc. Thorac. Surg. 15(1): 171-3, 201	Segmentectomy for giant pulmonary sclerosing haemangiomas with high serum KL-6 levels.	Kuroda, H.	呼吸器外科
Thorac. Cardiovasc. Surg. 60(8): 533-540, 2012	Clinical impact of intraoperative detection of carcinoembryonic antigen (CEA) in mRNA in pleural lavage specimens from non-small cell lung cancer.	Satoh, Y.	呼吸器外科
Breast Cancer. 19(2): 95-103, 2012	Possible available treatment option for early stage, small, node-negative, and HER2-overexpressing breast cancer.	Araki, K.	乳腺内科
Invest. New Drugs. 30(6): 2327-33, 2012	First clinical pharmacokinetic dose-escalation study of sagopilone, a novel, fully synthetic epothilone. in Japanese patients with refractory	Araki, K.	乳腺内科
Breast Cancer. 19(3): 206-2011, 2012	Eradication of breast cancer cells in patients with distant metastasis: the finishing touches?	Ito, Y.	乳腺内科
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(4): 278-86, 2012	Safety, efficacy and pharmacokinetics of neratinib (HKI-272) in Japanese patients with advanced solid tumors: A phase 1 dose-escalation study.	Ito, Y.	乳腺内科
Cancer Sci. 103(6): 1172-6, 2012	High levels of DJ-1 protein in nipple fluid of patients with breast cancer.	Oda, M.	乳腺外科
Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 83(3): 845-52, 2012	Influence of lymphatic invasion on locoregional recurrence following mastectomy: indication for postmastectomy radiotherapy for breast cancer patients with one to three positive nodes.	Matsunuma, R.	乳腺外科
Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 83(3): 845-52, 2012	Influence of lymphatic invasion on locoregional recurrence following mastectomy: indication for postmastectomy radiotherapy for breast cancer patients with one to three positive nodes.	Matsunuma, R.	乳腺外科
J. Clin. Ultrasound.: in press, 2012	Sonographic findings in three cases of carcinoma showing thymus-like differentiation.	Yamamoto, Y.	消化器内科
J. Clin. Ultrasound.: in press, 2012	Sonographic findings in three cases of carcinoma showing thymus-like differentiation.	Yamamoto, Y.	消化器内科
J. Obstet. Gynaecol. Res. 38(1): 84-8, 2012	Unexpected tumor progression after conization for carcinoma in situ of the uterine cervix.	Omatsu, K.	婦人科
World J. Surg. 36(6): 1247-1254, 2012	Prognostic factors and treatment outcomes for anaplastic thyroid carcinoma: ATC research consortium of Japan cohort study of 677 patients.	Sugitani, I.	頭頸科
World J. Surg. 36(6): 1231-1240, 2012	A Novel Definition of Extrathyroidal Invasion for Patients with Papillary Thyroid Carcinoma for Predicting Prognosis.	Hotomi, M.	頭頸科
BMC Cancer. 12: 313, 2012	Intraneural metastasis of gastric carcinoma leads to sciatic nerve palsy.	Ichikawa, J.	整形外科
Int. J. Gynecol. Cancer. 22(4): 573-8, 2012	Adjuvant Chemotherapy for Stage I Clear Cell Carcinoma of the Ovary: An Analysis of Fully Staged Patients.	Takada, T.	婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am. J. Surg. Pathol. 36(1): 35-42, 2012	Diverse fusion patterns and heterogeneous clinicopathologic features of renal cell carcinoma With t(6;11) translocation.	Inamura, K.	泌尿器科
BJU Int. 109(5): 665-71, 2012	Characteristics and clinical significance of prostate cancers missed by initial transrectal 12-core biopsy.	Numao, N	泌尿器科
BJU Int. 109(9): 1394- 1354, 2012	Clinical efficacy and prognostic factors for overall survival in Japanese patients with metastatic renal cell cancer treated with sunitinib.	Yuasa, T.	泌尿器科
BJU Int. 110(10): 1478- 84, 2012	Impact of C-reactive protein kinetics on survival of patients with advanced urothelial carcinoma treated by second-line chemotherapy with gemcitabine, etoposide and cisplatin.	Saito, K.	泌尿器科
BJU Int. 110(11Pt.B): E564-9, 2012	Extended biopsy based criteria incorporating cumulative cancer length for predicting clinically insignificant prostate cancer.	Komai, Y.	泌尿器科
Int. J. Clin. Oncol.: in press, 2012	Possible improvement of survival with use of zoledronic acid in patients with bone metastases from renal cell carcinoma.	Yasuda, Y	泌尿器科
Int. J. Clin. Oncol.: in press, 2012	Prognostic impact of pretreatment C-reactive protein for patients with metastatic renal cell carcinoma treated with tyrosine kinase inhibitors.	Yasuda, Y.	泌尿器科
Int. J. Urol. 19(10): 929- 35, 2012	Performance of prostate-specific antigen mass in estimation of prostate volume in Japanese men with benign prostate hyperplasia.	Masuda, H.	泌尿器科
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(6): 541-7, 2012	Long-term oncological outcome and risk stratification in men with high-risk prostate cancer treated with radical prostatectomy.	Yamamoto, S.	泌尿器科
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(8): 697-703, 2012	Feasibility and efficacy of combined cisplatin and irinotecan chemotherapy for poorly differentiated neuroendocrine carcinomas.	Nakano, K.	泌尿器科
Onco. Targets Ther. 5: 221-9, 2012	Denosumab: a new option in the treatment of bone metastases from urological cancers.	Yuasa, T.	泌尿器科
Translational Med. S2- 0032012	Molecular targeted therapies for patients with metastatic renal cell cancer.	Yuasa, T.	泌尿器科
Cancer Sci. 103(5): 933- 8, 2012	Phase I study of anti-CD22 immunoconjugate inotuzumab ozogamicin plus rituximab in relapsed/refractory B-cell non-Hodgkin lymphoma.	Ogura, M.	血液腫瘍科
Exp. Hematol. Oncol. 1(1): 30, 2012	R-CHOP with dose-attenuated radiation therapy could induce good prognosis in gastric diffuse large B cell lymphoma.	Mishima, Y.	血液腫瘍科
Int. Immunol. 24(8): 477- 83, 2012	High reproducible ADCC analysis revealed a competitive relation between ADCC and CDC and differences between FcγRIIIa polymorphism.	Mishima, Y.	血液腫瘍科
Invest. New Drugs. 30(3): 1096-1106, 2012	A phase I study of oral panobinostat (LBH589) in Japanese patients with advanced solid tumors.	Fukutomi, A.	血液腫瘍科
Leuk. Lymphoma. 53(5): 849-54, 2012	High thymidine kinase activity is a strong predictive factor for poor prognosis in peripheral T-cell lymphoma treated with cyclophosphamide, adriamycin, vincristine and prednisone.	Suzuki, K.	血液腫瘍科
Support. Care Cancer. 20(9): 2053-2059, 2012	Prospective evaluation of incidence and severity of oral mucositis induced by conventional chemotherapy in solid tumors and malignant lymphomas.	Nishimura, N.	血液腫瘍科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer. 19(4): 329-334, 2012	A lower dose of docetaxel at 60 mg/m ² could be continued longer for controlling peripheral edema in patients with metastatic breast cancer.	Hosonaga, M.	総合腫瘍科
Breast Cancer Res. Treat. 133(2): 685-93, 2012	Efficacy of zoledronic acid in postmenopausal Japanese women with early breast cancer receiving adjuvant letrozole: 12-month results.	Takahashi, S.	総合腫瘍科
Int. Cancer Conference J. 1: 168-72, 2012	Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome associated with mFOLFOX6 chemotherapy.	Matsunaga, M.	総合腫瘍科
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(8): 697-703, 2012	Feasibility and efficacy of combined cisplatin and irinotecan chemotherapy for poorly differentiated neuroendocrine carcinomas.	Nakano, K.	総合腫瘍科
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(10): 961-4, 2012	Hypomanic episode during recurrent gastric cancer treatment: report of a rare case and literature review.	Matsunaga, M.	総合腫瘍科
J. Anesth. 27(1): 18-24, 2012	Incidence of and risk factors for postoperative nausea and vomiting at a Japanese Cancer Center: first large-scale study in Japan.	Morino, R.	麻酔科
Antimicrob. Agents Chemother. 56(2): 1093-6, 2012	Chromosomal integration and location on IncI plasmids of the blaCTX-M-2 gene in Proteus mirabilis clinical isolates.	Harada, S.	感染症科
Exp. Hematol. Oncol. 1(1): 30, 2012	R-CHOP with dose-attenuated radiation therapy could induce good prognosis in gastric diffuse large B cell lymphoma.	Mishima, Y.	放射線治療科
J Appl Clin Med Phys. 13(1): 3700, 2012	Investigation of the feasibility of a simple method for verifying the motion of a binary multileaf collimator synchronized with the rotation of the gantry for helical tomotherapy.	Hashimoto, M.	放射線治療科
Radiol. Phys. Technol. 5(2): 186-98, 2012	Design and development of a new micro-beam treatment planning system: effectiveness of algorithms of optimization and dose calculations and potential of micro-beam treatment.	Tachibana, H.	放射線治療科
Breast Cancer. 19(2): 183-6, 2012	Breast cancer associated with mammary hamartoma.	Kai, M.	画像診断部
Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys. 83(3): 845-52, 2012	Influence of lymphatic invasion on locoregional recurrence following mastectomy: indication for postmastectomy radiotherapy for breast cancer patients with one to three positive nodes.	Matsunuma, R.	画像診断部
J. Clin. Ultrasound.: in press, 2012	Sonographic findings in three cases of carcinoma showing thymus-like differentiation.	Yamamoto, Y.	画像診断部
J. Obstet. Gynaecol. Res. 38(1): 84-8, 2012	Unexpected tumor progression after conization for carcinoma in situ of the uterine cervix.	Omatsu, K.	画像診断部
Jpn. J. Clin. Oncol. 42(6): 541-7, 2012	Long-term oncological outcome and risk stratification in men with high-risk prostate cancer treated with radical prostatectomy.	Yamamoto, S.	画像診断部
Nucl. Med. Commun. 33(7): 719-25, 2012	Novel human monoclonal antibody against epidermal growth factor receptor as an imaging probe for hepatocellular carcinoma.	Sogawa, C.	核医学部
Dig. Endosc. 24(5): 348-52, 2012	Usefulness of sodium hyaluronate solution in colorectal endoscopic mucosal resection.	Kishihara, T.	内視鏡診療部
Endoscopy. 44(2): 122-7, 2012	Long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for undifferentiated-type early gastric cancer.	Okada, K.	内視鏡診療部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endoscopy. 44(6): 556-64, 2012	Endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection for en bloc resection of superficial pharyngeal carcinomas.	Okada, K.	内視鏡診療部
J. Pharmacol. Sci. 120(3): 187-95, 2012	Paclitaxel increases high voltage-dependent calcium channel current in dorsal root ganglion neurons of the rat.	Kawakami, K.	薬剤部
Oncol. Res. 20(4): 179-85, 2012	Factors exacerbating peripheral neuropathy induced by paclitaxel plus carboplatin in non-small cell lung cancer.	Kawakami, K.	薬剤部
医学のあゆみ. 240(13): 1117-1121, 2012	肺癌UPDATE: 治療 肺癌に対する胸腔鏡手術.	文敏景	呼吸器外科
手術. 67(1): 122-128, 2012	Thoracoscopic left upper lobectomyにおける縦隔リンパ節郭清の工夫と実際.	文敏景	呼吸器外科
胸部外科. 65(1): 35-39, 2012	小型肺癌の治療戦略とその成績: 末梢型小型肺癌に対する完全胸腔鏡下区域切除術の適応と成績.	文敏景	呼吸器外科
日本外科学会雑誌. 113(6): 515-518, 2012	肺がんを疑う末梢孤立性病変への対応 胸腔鏡下肺生検の適応.	文敏景	呼吸器外科
日本医事新報, (4597): 50-51, 2012	胃癌術後化学療法S-1の副作用防御.	陳勁松	消化器内科
臨床現場での医薬品副作用の実情をふまえた副作用軽減化新薬開発(岸田崇利企画編集), 東京, 技術情報協会: 2012	好中球減少症・白血球減少症.	荒木和浩	乳腺内科
臨床血液. 53(4): 426-432, 2012	分子標的療法の新展開 乳癌に対する分子標的治療の進歩.	伊藤良則	乳腺内科
乳癌の臨床. 27(3): 299-305, 2012	浸潤性微小乳頭癌成分を有する32例の超音波画像の検討.	加藤千絵子	乳腺外科
乳癌の臨床. 27(5): 597-601, 2012	乳癌術後孤立性脳転移に対しガンマナイフ単独治療で32ヵ月間QOLを維持できた1例.	岡田明子	乳腺外科
映像情報メディカル. 44(3): 230-5, 2012	高分解能超音波装置による立体的腺葉構造読影法の可能性.	何森亜由美	乳腺外科
乳癌の臨床. 27(6): 759-765, 2012	診断治療の工夫 D領域の乳癌に対する側胸部脂肪弁を用いた再建の工夫.	米倉利香	乳腺外科
日本婦人科腫瘍学会雑誌. 30(4): 679-683, 2012	バルトリン腺原発adenoid cystic carcinomaの3例.	野村秀高	婦人科
日本産婦人科内視鏡学会雑誌. 28(2): 521-525, 2012	卵巣未熟奇形種術後化学療法中に生じたgrowing teratoma syndromeを腹腔鏡下手術で診断し得た1例.	阿部彰子	婦人科
東京産科婦人科学会雑誌. 61(1): 16-18, 2012	反復照射後に根治手術を行った外陰癌の1例.	的田眞紀	婦人科
東京産科婦人科学会雑誌. 61(3): 429-433, 2012	原発性卵巣癌との鑑別が困難であった肺癌卵巣転移の1例.	潮田至央	婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻と臨床. 58(Suppl.1): S3-S9, S27-S29, 2012	甲状腺癌に対する分子標的療法.	杉谷 巖	頭頸科
聖マリアンナ医科大学雑誌. 40(3): 141-149, 2012	甲状腺濾胞癌における遠隔転移の危険因子; 厚い腫瘍被膜の重要性.	新橋 渉	頭頸科
頭頸部癌. 38(1): 74-79, 2012	当科における頭頸部粘膜原発悪性黒色腫40例の臨床的検討.	齊藤 祐毅	頭頸科
頭頸部癌. 38(4): 425-429, 2012	舌癌における選択的頸部郭清の郭清範囲とstage I, IIにおける予防郭清の適応についての検討.	新橋 渉	頭頸科
癌と化学療法. 39(7): 1050-1054, 2012	Head and Neck Cancer 頭頸部腫瘍 甲状腺未分化癌の診断と治療.	戸田 和寿	頭頸科
日本整形外科学会雑誌. 86(1): 9-14, 2012	仙骨脊索腫の外科療法と重粒子線治療の長期成績(5-10年未満と10年以上) 仙尾骨発生脊索腫の治療成績.	谷澤 泰介	整形外科
臨床整形外科. 47(6): 527-531, 2012	難治性良性腫瘍の治療 色素性絨毛結節性滑膜炎と腱鞘巨細胞腫の臨床像と治療成績.	中山 隆之	整形外科
臨床整形外科. 47(7): 685-690, 2012	Spindlecell lipoma(紡錘形細胞脂肪腫)の治療経験	齊藤 正徳	整形外科
Medical Practice. 29(8): 1314-1315, 2012	造血器腫瘍 白血病・リンパ腫・骨髄腫の臨床診療に不可欠の最新情報とその活用: セミナー/最新の臨床的知識を活かした造血器腫瘍の臨床診療の実際 リンパ腫の最近の診療のキーポイント 悪性リンパ腫における可溶性IL-2受容体測定の意味.	照井 康仁	血液腫瘍科
Trends in Hematological Malignancies. 4(1): 39-41, 2012	Around Hematological Malignancies mTOR阻害剤.	照井 康仁	血液腫瘍科
医学のあゆみ. 242(13): 1152-1156, 2012	多発性骨髄腫-現状と進歩: 新薬の臨床試験 MLN9708とその他の新規プロテアソーム阻害剤.	照井 康仁	血液腫瘍科
医学のあゆみ. 242(13): 1183-1187, 2012	多発性骨髄腫-現状と進歩: 新薬の臨床試験 FGFRに対する抗体薬.	畠 清彦	血液腫瘍科
血液内科. 65(3): 442-447, 2012	濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ維持療法と再発・進行時の再治療の比較 リツキシマブによる維持療法の意義	照井 康仁	血液腫瘍科
PEPARS. 63: 46-59, 2012	穿痛枝皮弁挙上の工夫.	矢島 和宣	形成外科
整形・災害外科. 55(4): 381-386, 2012	マイクロサージャリー技術の進歩とその応用: 体幹・下肢における再建.	澤泉 雅之	形成外科
日本形成外科学会誌. 32(5): 340-343, 2012	遺伝子診断を伴った家族性乳癌患者の乳房再建の経験.	棚倉 健太	形成外科
臨書現場での医薬品副作用の実情をふまえた副作用軽減化新薬開発 東京, 技術情報協会: pp.124-129, 2012	オキュラーサーフェスおよび涙道の障害.	辻 英貴	眼科
Eye Surgery Now 9 続・外来小手術 東京, メジカルレビュー社: pp.74-77, 2012	外眼部/涙道 涙嚢摘出.	辻 英貴	眼科
漢方の臨床. 59(11): 1892-1906, 2012	茯苓四逆湯が奏効した癌患者4症例の検討と四逆湯類の適用法.	星野 惠津夫	漢方サポート科
大和証券ヘルス財団研究業績集, (35): 68-72, 2012	強度変調回転照射の品質管理に向けた精度検証手法の開発.	松林 史泰	放射線治療科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本放射線技術学会 放射線治療分科会誌. 26(2): 20-24, 2012	直線加速器IGRTにおける画像検証の現状と問題点.	松林史泰	放射線治療科
臨床放射線. 57(6): 803-808, 2012	乳癌の胸壁・リンパ節再発に対する救済放射線治療成績.	八木縁	放射線治療科
臨床消化器内科. 27(8): 1069-1078, 2012	下部消化管粘膜下腫瘍の診断と治療: 総論 CT、MRI診断.	松枝清	画像診断部
映像情報メディカル. 44(3): 230-5, 2012	高分解能超音波装置による立体的腺葉構造読影法の可能性.	何森亜由美	画像診断部
日本臨床. 70(増刊7 乳癌): 302-305, 2012	乳癌(第2版)-基礎と臨床の最新研究動向-: 乳癌の検査・診断 画像診断(新しいdeviceを含む) VAB(吸引式乳房組織生検法).	五味直哉	画像診断部
医学のあゆみ. 240(13): 1097-1101, 2012	肺癌UPDATE: 診断 肺がん診療にFDG-PET/CTは必須である.	小泉満	核医学部
日本放射線技術学会雑誌. 68(12): 1600-1607, 2012	三次元PET収集における被写体断面積と画質の関係.	大澤敦	核医学部
Prog. Dig. Endosc. 80(2): 42-46, 1, 2012	当院で胃生検にてatypical epithelium(新Group分類; Group 2相当)と診断された病変に関する検討.	吉澤奈津子	内視鏡診療部
Prog. Dig. Endosc. 80(2): 108-109, 8, 2012	H.pylori陰性多発胃癌の1例.	鈴木翔	内視鏡診療部
Prog. Dig. Endosc. 80(2): 102-103, 7, 2012	内視鏡的粘膜下層剥離術を施行した未分化型胃癌に乳癌の胃転移を認めた1例.	谷口智香	内視鏡診療部
Prog. Dig. Endosc. 81(2): 104-105, 8, 2012	同一病変内に共存した早期胃癌とNETの1例.	森重健二郎	内視鏡診療部
Prog. Dig. Endosc. 81(2): 57-61, 2, 2012	NBI拡大内視鏡所見「不規則血管」と胃癌組織型の検討.	松尾康正	内視鏡診療部
日本大腸肛門病学会雑誌. 65(4): 219-223, 2012	直腸癌術後の膜様閉鎖に内視鏡的切開術が有用であった2例.	林裕子	内視鏡診療部
消化器の臨床. 15(1): 98-103, 2012	ESDの実際 大腸ESD 私の工夫 線維化を伴う病変に対する大腸ESDの工夫.	為我井芳郎	内視鏡診療部
コンセンサス癌治療. 11(3): 159-161, 2012	NETを合併する家族性腫瘍(MEN1とVHL).	新井正美	遺伝子診療部
癌と化学療法. 39(4): 525-531, 2012	遺伝性乳癌卵巣癌診療の新時代: 遺伝性乳癌卵巣癌における遺伝子診断とリスク低減手術の現状と課題.	新井正美	遺伝子診療部
医療薬学. 38(3): 163-169, 2012	抗がん薬連日投与におけるアプレピタント3日間服用レジメンの制吐効果についての評価.	鈴木亘	薬剤部

計:17

合計:109

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 門田 守人
管理担当者氏名	各管理責任部署の長

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		院長室、各診療科、薬剤部、手術室、看護部、情報システム課、がん登録室	…病院日誌は院長室、各科診療日誌は各診療科、処方せんは薬剤部、看護記録は看護部。他、患者の診療記録は電子カルテ等によるシステム管理。紹介状の原本についてはがん登録室にて保管。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部	…人事部にて作成、管理。	
	高度の医療の提供の実績	病院総務課	…先進医療の年度報告をファイル保管。	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	…学術研究委員会の活動の記録（議事録等）を保管。	
	高度の医療の研修の実績	人事部	…人事部にてファイル保管。	
	閲覧実績	各管理責任部署	…開示請求に基づき各管理責任部署が対応。	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事部及び情報システム課	…電子カルテによるシステム管理。	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事部及び薬剤部	…医事システム。但し、調剤数は薬剤システムでデータを管理。	
	第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	…ファイル保管の上、電子カルテにて常時、閲覧可。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	…医療安全管理委員会の開催記録（議事録等）をファイル保管。	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	…医療安全職員研修会の開催記録をファイル保管。	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	…各現場からの IA レポート報告及びその改善のための医療安全管理委員会等での検討内容をファイル保管。		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	…医療安全管理部にゼネラルリスクマネージャーを、各部署にリスクマネージャーを配置。		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策部	…感染管理認定看護師を配置。		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	…医療安全管理部を設置。		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事部及び患者支援センター	…総合窓口の医事部にて相談を受け、内容により担当部署に振り分けて、各部署にて対応。		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策部 …ファイル保管の上、電子カルテにて常時、閲覧可。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策部 …院内感染対策委員会の開催記録（議事録等）をファイル保管。
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策部 …院内感染対策研修会の開催記録をファイル保管。
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策部 …各現場からのレポート報告及びその改善のための委員会等での検討内容をファイル保管。
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 …医薬品情報管理担当者を配置。
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 …医薬品の安全使用のための研修の開催記録をファイル保管。
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 …薬剤部にてファイル保管。
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 …医薬品情報管理室にて医薬品情報の収集、評価等を実施し、記録をファイル保管。
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	麻酔科及び購買施設課 …医療機器安全管理責任者を配置。
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	購買施設課 …医療機器の安全使用のための開催記録をファイル保管。
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	購買施設課及び各部署 …自主点検及びメーカー等による保守点検記録等をファイル保管。	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	購買施設課 …購買施設課にて医療機器情報の収集、評価等を実施し、記録をファイル保管。	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	門田 守人
閲覧担当者氏名	各委員会委員長及び各管理責任部署の長
閲覧の求めに応じる場所	病院総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	95.0 %	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月 31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	11219 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8035 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	579 人	
	D: 初診の患者の数	12836 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・指針の主な内容 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理委員会・組織に関する基本的事項 3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. 本指針の見直しに関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	平成24年度 24回
・活動の主な内容 1. 医療安全管理体制などの実態の把握及び関連資料の整備 2. 具体的な医療安全対策の審議及びその実現施策の策定 3. 医療安全教育・予防対策などに関する立案及びその実施 4. 医療安全基本マニュアルの策定 5. 医療訴訟に関する業務 6. 前各号の定めるもののほか医療安全に係わる必要な事項 7. 医療安全管理委員会規程の改訂	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	平成24年度 8回
・研修の主な内容 1. 2011年度医療安全活動報告 2. 転倒・転落対策、病院リハビリの立場から 3. 病院全体研修会（認証の重要性・有害事象事例報告） 4. 医療訴訟に学ぶリスク管理 5. 気道確保の一つである声門上器具の使い方、緊急時の看護 6. 改正医療法と事故事例から考える医療安全 7. 医療安全推進週間講習会（IAレポート分析による現状報告、レンドルミンからマイスリーへ） 8. 医薬品安全管理研修会（持参薬管理センターの取り組み、転倒IAにおける薬学的考察）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 当事者・発見者がIAレポートをオンラインシステムで報告する。 2. 各部署でRMを中心に事例の検討・RCA分析を行う。 3. 専任RM部会でIA報告をとりまとめ分析・検討し、安全管理部門から各部署へ連絡・指導する。 4. 各部署および専任RM部会で立案し、医療安全管理委員会で決定する。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無

所属職員： 専任（２）名 兼任（２）名

活動の主な内容：

- ・安全管理に関する情報の収集・提供をする
- ・IAレポートの集計・分析をする
- ・複数の部署にまたがる問題を分析し、改善策の実施を図る
- ・有害事象（医療事故）発生時の対応状況に関して、必要な指導と助言を行う
- ・医療安全管理に関する職員研修の企画・運営をする
- ・医療安全管理委員会での資料及び議事録の作成・保存その他庶務を担当する

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策に関する基本的考え方・ 院内感染対策のための委員会等病院感染対策の組織に関する基本的事項・ 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針・ 感染症の発生状況に関する基本方針・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止のための職員研修・ 院内感染対策マニュアルの作成および年1回定期的に改訂・更新・ 院内感染発生時および発生が疑われる際の対応状況を含め管理者に報告・ 委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直す・ 院内感染に関する情報収集および内外への公表・ 院内感染患者の治療・管理・および院内感染の拡大防止のための対策の提言・ その他、院内感染およびその防止にかかわるすべての事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年12回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新入職員研修「感染対策について」・ 新採用者オリエンテーション・ ボランティア研修会「感染対策について」・ 病院全体研修「院内の耐性菌拡散を防ぐために」「病院内で起こる感染症」・ 清掃委託業者研修会「感染対応清掃・ゴミ収集作業」・ 手指衛生演習（全看護師対象）・ 看護助手研修「環境整備と感染対策防止策」・ 既卒者支援研修・ 研究所遺伝子診断部勉強会・ N95マスク装着練習（ICU看護師対象）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： (有・無)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経路別予防策対象患者発生時の院内感染対策チームによる個別指導と実施状況のフォローアップ・ 院内感染対策チーム会議を毎日行い、微生物検査室の感染症情報、その他関連情報の共有・ 院内感染対策部長が毎日全病棟回診を行い、院内感染対策実施状況の観察と聞き取りを行う・ 病棟あたりの耐性菌分離数増加や重要感染症発生時の院内感染対策チームと当該病棟スタッフとの臨時会議開催による情報共有と対策策定・ 抗菌薬適正使用促進のための感染症コンサルテーション、血培陽性患者のラウンド実施と広域抗菌薬長期使用患者のラウンドの実施	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">抗がん薬と麻薬の取扱い（新入職員オリエンテーション）持参薬管理全体研修会：感染管理、院内の耐性菌拡散を防ぐために持参薬管理センターの取り組みと転倒IAにおける薬学的考察その他：病棟スタッフを対象とした病棟単位での病棟薬剤師による研修会（年1から2回程度）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (☑・無)業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成と改訂<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品安全使用のための業務手順書の定期的な見直し（年1回以上）2. 職員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品安全管理研修会の企画立案、実施、指示3. 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施確認<ul style="list-style-type: none">・ 業務チェックリストによる確認4. 医薬品の安全使用のための情報収集、伝達<ul style="list-style-type: none">・ PMDAメディアナビ等での情報収集・ 医薬品情報の収集とDIニュース等の情報発信の企画立案・ Cancer Board等での対面での情報伝達指示5. その他医薬品の安全確保を目的とした改善策の実施<ul style="list-style-type: none">・ 麻薬、ハイリスク薬、病棟定数等の保管管理の相談・ 抗がん薬レジメンの登録、変更の確認・ 医療安全委員会、感染対策委員会、薬事審査委員会、化学療法委員会へ出席	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ PMDAメディアナビに登録、PMDA医薬品医療機器情報提供ホームページにて最新添付文書を確認、入手している・ 学会誌、業界紙の定期購読・ DI担当者の配置・ MRとの面談時間の設定・ 新規抗がん薬の導入時には、医師、看護師、薬剤師等による新薬導入チームを編成し、導入の問題点、チェック項目、同意説明文書等を事前に検討、作成し情報を共有して安全な導入を実施している。・ 外来持参薬管理センターを立ち上げ（一部診療科のみ）術前中止薬を外来時にチェックしている	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 (H24. 4. 1~H25. 3. 31)	年 69 回
<p>・ 研修の主な内容：新規採用装置・新人研修・定期研修</p> <p>1. 新人を対象とした機器取扱に関する研修や、特に技術の習熟を必要とする機器。更に、新規導入機器に関する研修。</p>	
<p>実施状況</p>	
① 超音波検査部「超音波診断装置操作に関する新人研修」	24年 4月 3名
② 放射線治療部「治療計画装置に関する新人研修」	24年 4月 24名
③ 放射線治療部「リニアックに関するMUの手計算について」	24年 4月 17名
④ 看護部「スタートレベル看護師研修」	24年 4月 33名
⑤ 看護部「輸液ポンプ等研修」	24年 4月 74名
⑥ MEセンター「除細動器・AED操作研修」	24年 4月 10名
⑦ 放射線治療部「治療機器研修」	24年 5月 20名
⑧ 放射線治療部「治療機器新人研修」	24年 5月 14名
⑨ 放射線治療部「超音波装置デモ機操作研修」	24年 5月 9名
⑩ 放射線治療部「リニアックに関する研修」	24年 5月 16名
⑪ 臨床検査センター「SAS検査機器研修①」	24年 5月 5名
⑫ 放射線治療部「リニアックに関する新人研修」	24年 5月 9名
⑬ MEセンター「PCAポンプ操作研修」	24年 5月 11名
⑭ 放射線治療部「リニアックのQA・QCに関する研修」	24年 5月 14名
⑮ 放射線治療部「RALS新人研修」	24年 5月 10名
⑯ 放射線治療部「RALSに関する最近の動向について」	24年 6月 20名
⑰ 放射線治療部「IMRTに関しての基本研修」	24年 6月 10名
⑱ 放射線治療部「定位照射に関する新人研修」	24年 6月 13名
⑲ 放射線治療部「医療情報に関する新人研修」	24年 6月 9名
⑳ MEセンター「輸液ポンプ・シリンジポンプに関する操作研修」	24年 6月 6名
21 放射線治療部「リニアックに関する研修」	24年 7月 17名
22 核医学部「RI廃棄物管理」	24年 5月 10名
23 核医学部「ガンマカメラ研修」	24年 5月 10名
24 核医学部「サイクロトロンに関する研修」	24年 5月 10名
25 核医学部「PET装置研修」	24年 6月 10名
26 核医学部「放射線に係る研修」	24年 6月 10名
27 核医学部「センチネルリンパ節シンチグラフィ」	24年 6月 10名
28 核医学部「骨シンチグラフィについて」	24年 6月 10名
29 核医学部「内用療法について」	24年 7月 10名
30 核医学部「外部研修 SPECT装置研修」	24年 6月 10名
31 核医学部「外部研修 PET/CT装置研修」	24年 7月 10名
32 MEセンター「人工呼吸器に関する小勉強会」	24年 7月 2名
33 放射線治療部「治療全般に関する研修」	24年 8月 17名
34 MEセンター「モニタに関する小勉強会」	24年 8月 2名
35 MEセンター「人工呼吸器・除細動器操作研修」	24年 8月 44名
36 医療機器安全管理委員会「AED操作研修」	24年 9月 16名
37 放射線治療部「IMRTに関する研修」	24年10月 16名
38 放射線治療部「IMRTの固定具に関する研修」	24年 9月 16名
39 画像診断部「MRI用造影剤自動注入器操作研修」	24年10月 24名
40 画像診断部「MRI安全教育」	24年10月 54名
41 画像診断部「3T-MRI基本操作研修」	24年9月、10月 4名
42 MEセンター「新規導入機器 (WEP-5218) 研修」	24年10月 5名
43 MEセンター「新規導入機器 (EV1000) 研修」	24年 9月 19名
44 MEセンター「除細動器・AED操作研修」	24年 9月 4名
45 臨床検査センター「SAS検査機器研修②」	24年10月 5名
46 MEセンター「PCAポンプ操作研修」	24年10月 13名
47 臨床検査センター「分析装置操作研修」	24年12月 7名

48	臨床検査センター「尿定性分析装置研修」	24年11月	5名
49	放射線治療部「放射線治療装置研修」	24年11月	15名
50	放射線治療部「放射線治療装置研修」	24年12月	16名
51	画像診断部「新規CT装置研修」	24年11月、12月	39名
52	臨床検査センター「検査装置取扱い研修」	24年12月	5名
53	画像診断部「新規CT装置研修」	24年12月、25年1月	4名
54	MEセンター「新規導入機器(WEP-5218)研修」	24年12月	4名
55	放射線治療部「放射線治療システム研修」	25年1月	16名
56	MEセンター「人工呼吸器操作研修」	25年1月	1名
57	臨床検査センター「検査装置操作研修」	25年1月	5名
58	放射線治療部「RALS安全使用研修」	25年1月	17名
59	MEセンター「血液浄化療法研修」	25年1月	10名
60	画像診断部「新規導入機器(一般撮影装置)研修」	25年2月	21名
61	放射線治療部「他院見学報告」	25年2月	17名
62	MEセンター「小型シリンジポンプ操作研修」	25年2月	13名
63	核医学部「MRI装置研修」	25年2月	13名
64	放射線治療部「放射線治療機器全般研修」	25年3月	14名
65	MEセンター「IABP操作研修」	25年3月	10名
66	超音波検査部「超音波診断装置操作研修」	25年3月	15名
67	超音波検査部「超音波診断装置操作研修」	25年3月	16名
68	核医学部「多目的放射性医薬品合成装置についての研修」	25年3月	12名
69	MEセンター「PCAポンプ操作研修」	25年3月	6名

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

- ・ 計画の策定 (有 ・ 無)
- ・ 保守点検の主な内容：メーカーや院内のME技師が定期点検を実施。

実施状況

人工呼吸器：メーカー点検 Evita2、EvitaXL 年1回(9/10~12)
LTV-1200 年1回(9/4) 1台は現在継続中
Bipap Vision 1.5年に1回 (H24.9.20)

除細動器：院内点検(ME) 6ヶ月毎 実施日 4/1・4・8・17・18 5/1・2・13・22
6/3・4・11・19 7/2・4・10・17・19 8/5・6・14・26 9/5・10

血液浄化装置：院内点検(ME) 週1回 実施日 4/4・11・18・25 5/2・9・16・23
6/27 7/4・11・18・25

IABP(補助循環装置)：院内点検(ME) 半年1回 実施日7/13

輸液・シリンジポンプ：メーカー点検 年1回 6/17~7/26
院内点検(ME) 3ヶ月に1回

PCAポンプ：院内点検(ME) 6ヶ月に1回
CADD-legacy 7/2~10
i-Fusor Plus 4/11~24 5/1~30 6/4~18 7/18 8/1~22 9/1

リニアック：メーカー点検 年4回 実施日①5/17 8/21 予定日①11/26・27 2/15・16
②4/20 7/20 ②10/19・20 1/18・19
③6/15 ③9/20~22 12/21・22 3/14~16

RALS：メーカー点検 年1回 実施日 4/3

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

情報収集や改善のための方策は、メーカーの案内や新聞記事などで収集し、当院に該当している案件に関しては医療機器安全管理委員会で検討し、各現場に周知していただいている。また、院内で起きたIA事例はデスクネッツを活用し、医療安全通信に掲載して全体に発信、注意喚起を行っている。

発信内容

- ①メーカー案内：内視鏡に関する使用注意。内視鏡部へ回覧。
- ②ペースメーカー装着者のMRI検査について：デスクネッツに掲載し、注意喚起を行った。